

## 平成 23 年度 大阪府済生会泉南特養なでしこりんくう事業計画

### 《基本方針》

昨年は小規模多機能型居宅介護事業なでしこ泉南の開設に向けて準備に追われた一年でしたが、在宅部門のスタッフにとりましては、行政と済生会支部の指導の基に設計事務所との打ち合せや備品の購入、さらには地域密着型の運営システム等、多くの学びが出来た一年でもありました。しかしながら 3 月 11 日の東日本大震災の発生はあまりにも衝撃が大きく、22 年度の成果を跡形も無く呑み込んでしまったような感があります。本部からの司令と同時に、済生会の使命である“困った人に手をさしのべる”に基づいて、早速後方支援体制に入りましたが、現地病院への医療スタッフの投入が先行し、施設関連は備蓄の提供に止まっている状況で、現地の被災者救援に対しては厚生労働省の要請が無く積極的活動には至っていない、何とも歯がゆい状況が続いています。この現状を踏まえ、今まで展開してきました東南海地震を想定した“三日生き残り作戦”では、はなはだ不十分であり、今年 11 月 20 日の防災訓練を目指して方針の見直しが急務と考え、家族会との連合プロジェクトの展開を“十日生き残り作戦”に切り替え、より積極的な自衛組織に組み替える必要を痛感しました。

次に、在宅部門はなでしこ泉南を中心とした経営の安定が第一であり、『他のサービス事業所に迷惑をかけない』を基本に、なでしこ利用者の中から移動をお願いした事が、予想どおり 3 月実績の落ち込みを来たしています。従って在宅部門の当面の目標は、なでしこ泉南開設前に戻す事と考えます。

またなでしこ泉南については、地域密着型サービスの特徴を活かした経営の安定を目指し、“個々人のニーズに合わせた 24 時間 365 日のサービス提供”を事業精神として職員育成に力をいれる所存です。

次に、入所部門についてはこの一年、第三者評価の更新審査に向けて家族会の協力のもと、きめこまかなサービス提供に取り組んできました。特養の基本理念である“利用者の個性豊かな尊厳ある日常生活を支援します”に基づいたサービス提供の真価は、5 月のプレゼンテーションにおいて問われることとなります。そのため、残された日々を職員一丸となって最終見直しと、さらなる課題解決に取り組み、全ての審査項目にスペシャル A を付ける事が出来るように最期の頑張りが必要な時期と言えます。また受審の際の審査官の助言は、一言一言を素直に受け止め、今後のサービスのあり方に対する指標として取り組む事が、より良いサービスへの飛躍であり、今年 1 年は気の抜けない年になると考えます。

以上、23 年度の基本方針として取り組んでいく所存ですので、よろしくご協力をお願いします。

## 《重点目標》

1. 災害時の特養救援活動システムの充実
2. リスクコントロールの強化
3. グループケアの定着と介護力強化活動の充実
4. 法令遵守の徹底管理
5. キャリアパスの実施と処遇見直し
6. 小規模多機能型居宅介護事業の運営の安定
7. 情報共有システムの確立
8. 地域密着型特養開設準備

## 《具体的事業内容》

1. 災害時の特養救援活動システムの充実（清水主任心得）
  - 1) 役割認識の徹底
  - 2) 消防・防災訓練の実施
  - 3) 災害備蓄の管理
2. リスクコントロールの強化（田中寮棟副長、）
  - 1) 感染・事故・拘束・苦情・虐待防止の徹底
  - 2) パトロールの実施と評価
  - 3) 教育委員会との連携によるマニュアル強化
3. グループケアの定着と介護力強化活動の充実（庄司寮棟長）
  - 1) ケアプランの実践システムの強化
  - 2) グループ単位のレクリエーション実施
  - 3) 実習指導の充実
4. 法令遵守の徹底管理（宮本主任）
  - 1) 各事業所月次報告の徹底
  - 2) 兼務配置者の実績管理の徹底
  - 3) 施設基準・加算要件の教育
5. キャリアパスの実施と処遇見直し（下田看護長）
  - 1) キャリアパスの確立
  - 2) キャリアパスに基づいた個別教育計画の実施
  - 3) キャリアパスと処遇の連動
6. 小規模多機能型居宅介護事業の運営の安定（高田室長）
  - 1) 123床のベッドコントロール
  - 2) 登録数25の維持
  - 3) 事業所内スタッフ教育
7. 情報共有システムの確立（宮本主任）
  - 1) 文書管理システムの構築と徹底
  - 2) 広報誌・ホームページの更新
  - 3) 年報の発行
8. 地域密着型特養開設準備（清水主任心得）